

すわみつえ通信

No.387 2025年12月22日

日本共産党鴻巣市議会議員
諒訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL : 596-9440 FAX : 507-4151
携帯 : 080-5039-2785
E-mail : mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届け
たい声がある 声をかたちに



1年間ありがとうございました

すわみつえ通信をお受け取りいただき、読んで、支えて下さったすべての皆さまに心から感謝申し上げます。

自民・維新の連立で誕生した高市政権は、暮らしと憲法を壊す危険な政権です。地方で民意が届く政治を行うために力をつくして参ります。

皆さまにとって新しい年が平和で希望に満ちた年となることを願い、年末のご挨拶といたします。

12月市議会定例会閉会となる

11月27日(木)より12月17日(水)まで21日間の日程で開催された12月市議会定例会が閉会となりました。執行部提案17件はすべて可決し、議員提案2件の内、「刑事訴訟法における再審規定(再審法)の改正を求める意見書」が可決しました。

共産党と社民党が提出した「衆議院議員定数を削減しないことを求める意見書」は否決

臨時国会の衆院は12月17日の本会議で、自民党と日本維新の会が提出した衆議院議員定数削減法案を継続審議とすることを賛成多数で決めました。継続審議となり成立を目指すとされています。

同日の鴻巣市議会に日本共産党と社民党で「衆議院議員定数を削減しないことを求める意見書」を提出しました。公明党・社民党・日本共産党の7名の賛成がありましたが、否決されました。残念ながら鴻巣市議会から意見書は上げられませんでした。

一般質問への情報提供、議会傍聴・
インターネット視聴に感謝申し上げます

小中一貫校の教育内容検討に進展なし！

12月15日(月)9時に一般質問を行いました。川里地域の小中一貫校整備についての質問では、小中一貫校の教育内容を検討する上で『『小中一貫校に対する専門的な識見』を持った学識経験者の参加を改めて求めていく』と9月議会で答弁したのにもかかわらず、「現時点では決まっていない。今後、他の自治体の事例を参考にしながら検討する」という答弁でした。

どんな教育をするのか、中身を決める前に、入れ物である建物だけは決めていくという進め方に説得力はありません。市民の理解も合意も得られないのではないでしょうか。



2026年度予算要望書を市長に提出

12月17日(水)議会終了

後、並木市長に2026年度の予算要望書を提出しました。また、高市政権が12月16日に成立させた2025年度補正予算の重点支援地方交付金は、市民の物価高からくらし守る予算となるよう強く求めました。鴻巣市は1月21日(水)に臨時議会を開き補正予算の議案を審議します。

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

冴える月七時間のちガザの空
瑠璃子

[俳句コーナー]

給食無償化は全額国負担 来年4月から公立小学校で 世論・地方の声が後押し

来年4月からの公立小学校の給食費無償化は、全額国の負担で実施することになりました。児童1人あたり月5200円を公費で支援します。12月18日の自民、日本維新の会、公明の3党による実務者協議で決定しました。

文部科学省によると、2023年の平均給食費は約4700円。物価高騰分を勘案し単価を引き上げます。必要経費は国と都道府県の折半としますが、地方分は交付税で対応し、実質的に自治体負担が発生しないようにします。ただし、給食費が5200円を超える場合は、自治体や保護者の負担が必要となるケースも想定されます。文科省はこれまで、アレルギーなどで弁当を持参する子どもや、不登校で給食を食べない児童生徒もいることから、「公平性」を口実に「無償化」に慎重な姿勢を示していました。



一方、保護者や学校関係者が無償化を求める運動を全国で展開。日本共産党の吉良よし子参院議員の2018年12月の国会質問に、文科省が「学校給食法は自治体の全額補助を否定していない」と認め、これらに押され自治体独自の無償化措置が広がりました。自維公は当初、2026年度予算が大詰めの段階で地方に半額を負担させる案を唐突に提示。これに対し全国知事会は12月12日、「本来であれば国の責任で全額国庫補助金等で実施するもの」だとする抗議声明を出していました。 [しんぶん赤旗 12月19日付]

戦争よりも平和を選ぶ 26日に女性党首・幹事長トーク

日本共産党の田村智子委員長、社民党の福島みづほ党首、新社会党的岡崎ひろみ委員長、沖縄の風の高良さちか幹事長が12月26日午後5時から、東京・有楽町のイトシア前での共同街頭宣伝「戦争よりも平和を私は選ぶ女性党首・幹事長 みんなでトーク」で訴えます。高市政権のタガが外れた暴走に対抗し、大軍拡反対、安保法制廃止、憲法守れの共同を広げる取り組みとして、多くの参加を呼びかけています。

[しんぶん赤旗 12月16日付]



きょうの潮流

しんぶん赤旗 12月18日付

年の瀬が迫るなか、クリスマスやお正月の準備が慌ただしく進められています。この時期、いつもと変わらぬ光景のようにも映りますが、ことしは異変が起きているそうです▼クリスマスケーキは小さいサイズの予約が増え、おせちの縮小も多くみられるといいます。ある調査では、そもそもクリスマスの予定がないと答えた人が過去最高の水準に。材料や具材が軒並み値上がりしていることが影響しています▼いまや、くらしのあらゆるところを直撃している物価高。節約志向も高まっていますが、それにも限界があります。給料が上がらず生活費が足りない、食べ物や暖房費にも事足りない。年末年始を困窮のなかで迎える姿も▼「くらしを守り、経済を立て直す太い柱がない」。国会で補正予算に反対した共産党・岩渕友議員の訴えです。苦境を開拓する対策もなく、平和を脅かす軍事費だけは突出させる。これでは18兆円を超える最大規模の補正予算は何のためなのか▼閉幕した臨時国会では裏金の温床となる企業・団体献金の禁止を棚上げ、定数削減を強行しようとした高市連立政権。その姿勢を「毎日」社説は、与党が身勝手な「改革」アピールに血道を上げた末、実現しない責任を野党になすりつけようとする。まさに茶番劇である、と痛烈に▼維新の吉村代表は結論を出さないと国会を逆に茶番劇呼ばわりし、「まっぴらごめん」だと。それを言うなら、国民の苦しみそっちのけで党利党略にまけた政治こそ、まっぴらごめんです。